

# 基盤強化へ向かう 産業界の針路 2025

## 洗浄で再生、「水道クライシス」回避へ

アイスピグ研究会事務局長 渡辺 良輝



水道事業の持続可能性が懸念される中、当研究会は「アイスピグ管内洗浄工法」により、法定耐用年数を超えたとされる上下水道管の再生を図り、多くの水道事業者が抱える「管の老朽化問題」の解決に貢献したいと考えます。

この工法は水（H<sub>2</sub>O）と塩（NaCl）からなる特殊アイスシャーベット（SIS）で「アイスピグ」を形成、圧力をかけて押し流すことによって、管内の汚れやマンガン、バイオフィルムなどを除去する技術です。環境にも優しく、2019年にはインフラメンテナンス大賞「優秀賞」を受賞しました。

洗浄後の管にカメラを入れると、多くの場合において健全な内壁が確認でき、水質の改善がみられます。「老朽管」でも機能を回復すれば、延命は可能なのです。

「更新」ではなく「洗浄」を選ぶことで、維持管理コストは大幅に縮減できます。「水道クライシス」回避と「持続可能な水道事業」への寄与を目指して、「アイスピグ」の普及に注力してまいります。